

日本  
語の  
個性

了  
文  
法  
の  
変  
化  
の  
点

外  
の  
語  
の  
点

は古語論として谷崎潤一郎の文章読本  
はきわめておもしろい。とくに外国語との  
比をふまえて日本語の特質を明らかにしてい  
る点では、あたかもさきにも、この名著に及  
ぶものがない。

その① 文章読本の中心

「日本語には、西洋語にあるようなむづか  
しい文法といふものはありません。……文法  
的に誤りのない文章を書いている人は、一人  
もなっていない。」

とらる所定あり、その先でさらに  
て日本語の明確な文法がありませんから  
従つてその習得するのが甚だ困難な譯であ  
ります  
ととひめを刺してゐる。おひふんはつきり云  
ひ切つたまのひ。さすがに後々、これに批判  
を加える人があらわれた。ひこつには、著者  
の云ひ方がいささか不用意であつたから誤解  
されたのである。日英辞には英語と同一よりす文  
法はよい、とすべしよかつたのである。鶴年

急に、日本語には文法がないところがあるように  
に書いたのは不用意である。日本語の文法は  
英語などの文法と違うという至極、昔の  
ことを、文明開化の明治以来、はつきり云っ  
た~~人~~はなかった。西政<sup>感</sup>その他に認める潜在的な  
写植<sup>感</sup>は、いまなお多くの日本人を苦しめている  
此の<sup>感</sup>も、公谷崎ほいち早く~~決~~き出した。この  
文章本日は、<sup>感</sup>「<sup>感</sup>」<sup>感</sup>であるのもそのため  
である。  
公谷崎が、日本語にいわゆる文法がないと

と云った様子は二つある。

(一) 「本邦のセコンドスには必ずしも主権の

あることを必要としな

(二) 「われわれの国の言葉にセコンドスの規則

なにかないことではありませんけれども誰も

正確に使っていません

また、主権を欠いた日本文について、す

いに可<sup>カ</sup>糾<sup>キウ</sup>の問題<sup>ト</sup>「日本邦の糾<sup>キウ</sup>」<sup>②</sup>と「家

は鼻が長い」<sup>⑤</sup>に於いて、かなり詳しく

くのひたのび、<sup>②</sup>のテコンスに於いて

考えることにする。

テンスは、<sup>1</sup>時刻をあらわす英語の文法の

用語であり、<sup>2</sup>日本文法ではテンスは「時」

教えるところがある。↑<sup>3</sup>語 については「時」を

文法上の時、時刻は、現在(形)、過去(形)

未来(形)の三つである。①文章読みの

例は、<sup>1</sup>した<sup>2</sup>と云<sup>3</sup>は過去<sup>4</sup>する<sup>5</sup>と云<sup>6</sup>は

今、現在、<sup>7</sup>しよう<sup>8</sup>と云<sup>9</sup>は<sup>10</sup>未来<sup>11</sup>なり

ます<sup>12</sup>とあるのだが、<sup>13</sup>実際はさうなっていない

のでなる。日本語には過去のことを「平気」で

現形であらう。たゞえば内田百閒は

「食卓に著く前に記念撮影をすると云うの  
で、ホイ<sup>に</sup>持つてまきせ及涼み台の様子を  
腰掛けに列んで腰を掛けた。

税務部長せんしのみまい。たかう一列に列  
んだわけで起つてみる者はある。真中に  
の長が松室致向が掛けとみる。……松室さん  
の隣りは祇野長の野上さんで、腰掛けの一番  
右の端に私がみたし（「んよとや合し胃腹」）  
といふ文章を考いている。論は過去の事

地  
み

たから、全休に勤勤に過去形であるべきだと  
思ううちは神心者である。ここでは、はじめて  
終りに、掛けたとみたると過去形があらた  
けで、その間にある文法はすべて現在形になる  
つていゝ。

内田百閒はおそろしく明治以降、最大の文章手  
成である。行文まことに行き届いており、い  
ささか、~~能~~も見せない。その百閒が過去形  
ひるく現在形にしているのひである。過去形に  
したろ、すくなくとも文章のニユアンスは大



大きく損われぬに違いない。悪文になる。  
日本語の文法でテニスが破綻しはくいのば  
時をあらわす、動詞、助動詞が、きまって文  
末にあるといふ日本語特有の構造と関係する  
英語では、動詞は主語のすぐあとにあるから  
さほど危ない。お強は文章おかし、感  
し過去の動詞がつかくと、耳おわり、おいし  
は単語になる。うっかりしなくても、た、た、  
尤と過去の形が行列のよるになる。文法、破綻た  
変化をうけなくはくいのば。文章を著るほ

この人びと<sup>ら</sup>を~~し~~考える。が、アリエイエモンを  
つけよ<sup>ら</sup>ぬ要がある。

全体が過去の文脈であれど、その中の現在  
形は、過去の形のかアリエイエモン、変化、つ  
まり過去形と同等なものを見なされる。日本  
語の妙であるが、それを教えてくれるところ  
がない~~か~~かもしない。

月形に比ぶると、テニスやかましの英語  
ひき、過去の形は、ひききとて、現在形を使  
うことがあまる。物語の高峰したところになる

と、それまでの過去形動詞をすてて、現在形  
を使用する。理に合ふから、英文法では  
これら「仮定的現在」というものがあ  
る前をうけた。

日本語にはありて、過去と文脈中で、現在形  
が用いられるのは、主として、文法、表現効果  
たよるもので、仮定的現在の向うを強  
い。 文法の理を呼ぶことかたきる。

とせん  
この考えでくると、日本語には文法が  
別の文法があるとしたら、文法

穩當にふるふるに思ふれる。

池内蛙の池のほとり水の音

足音を起ししる。